

平成26年度 学校評価アンケートのまとめ

一迫商業高等学校

※凡例



よく当てはまる



だいたい当てはまる



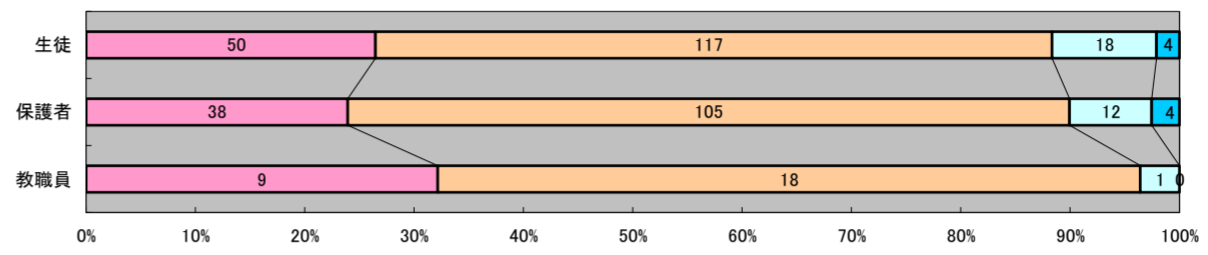
あまり当てはまらない



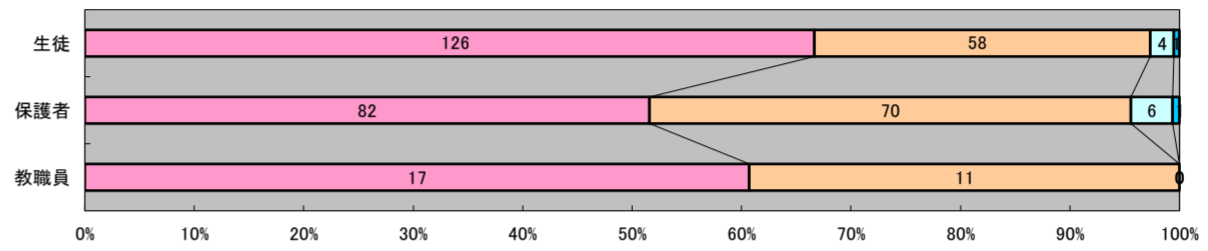
当てはまらない

I 宮城県公立高等学校共通項目

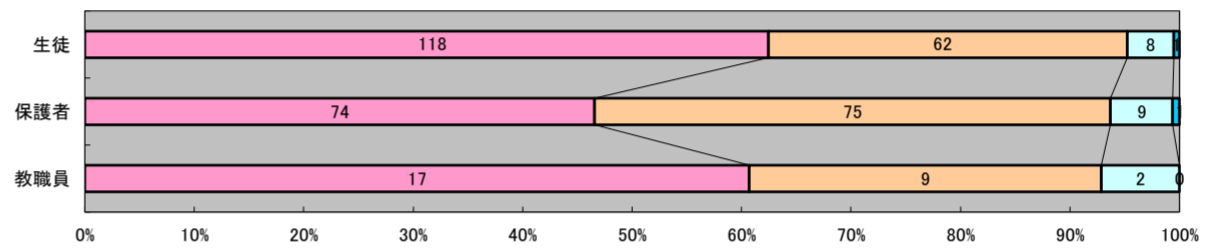
1 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている（学習指導）



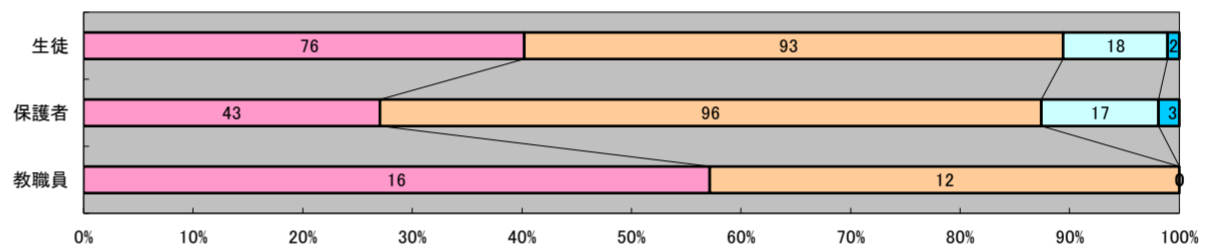
2 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている（生徒指導）



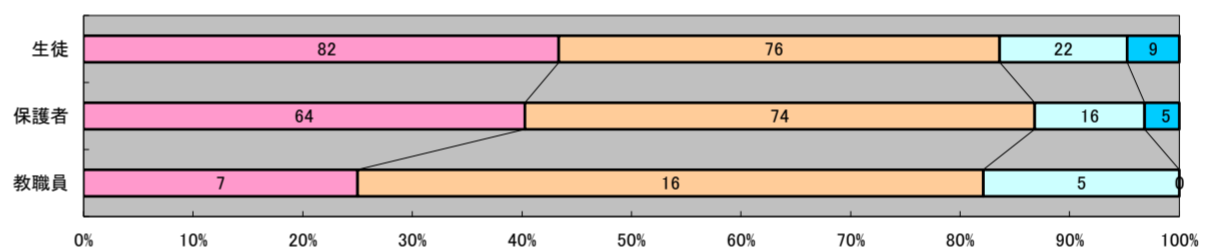
3 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている（進路指導）



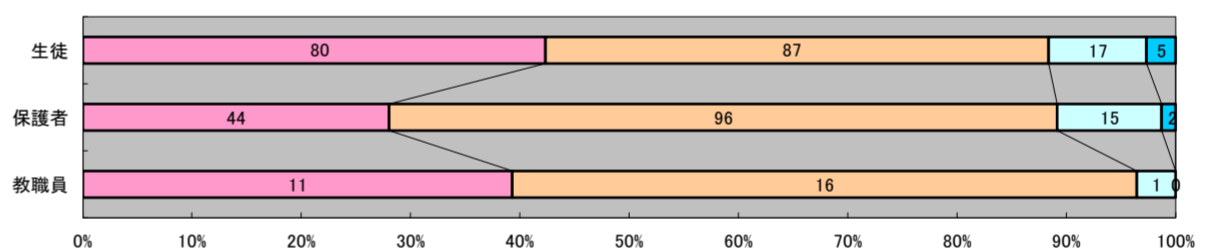
4 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている（教育相談）



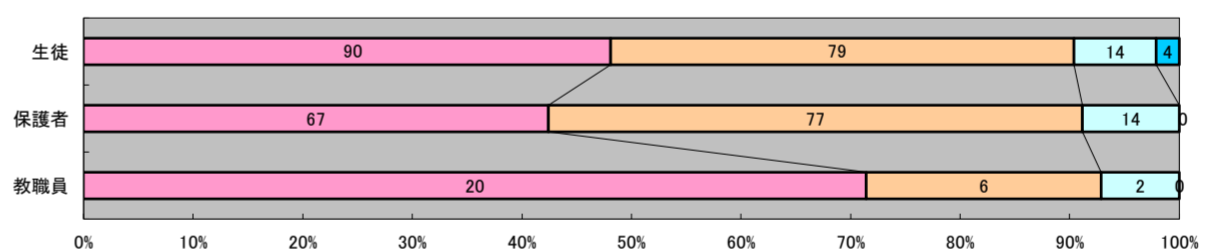
5 部活動は活発に行われている（部活動）



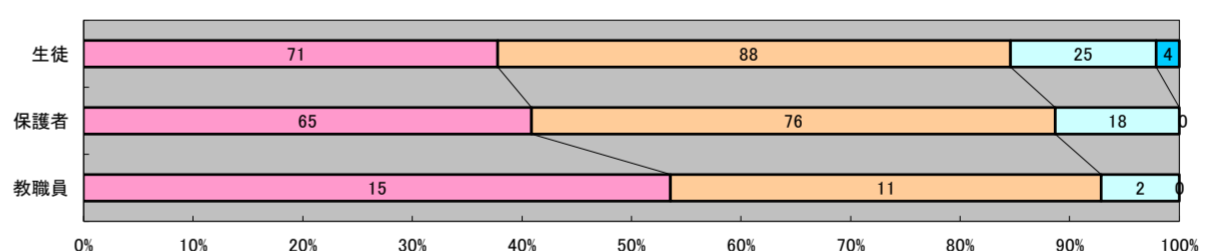
6 生徒会活動は活発に行われている（生徒会活動）



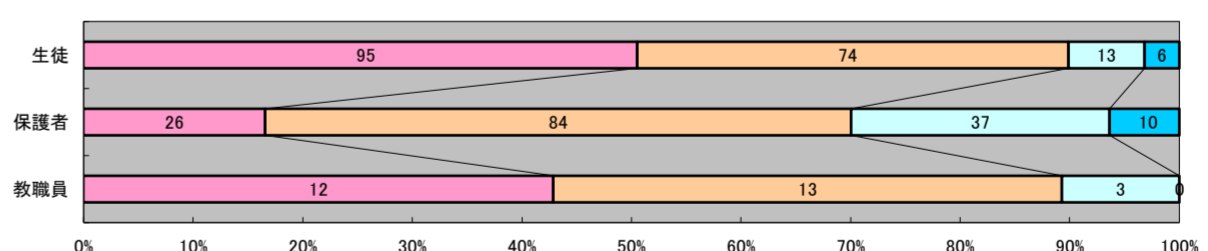
7 有意義な学校行事がある（学校行事）



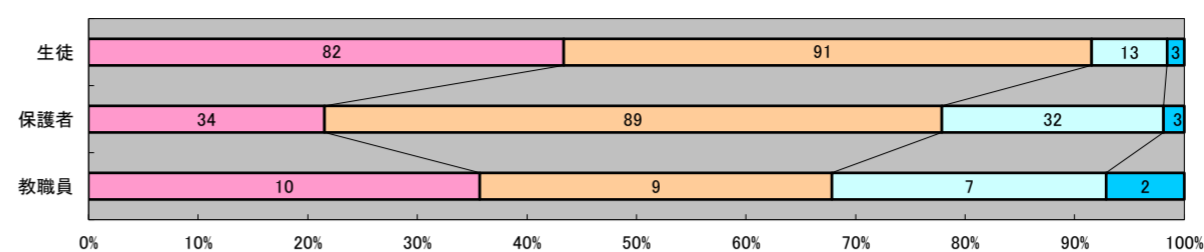
8 地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる（特色ある学校づくり）



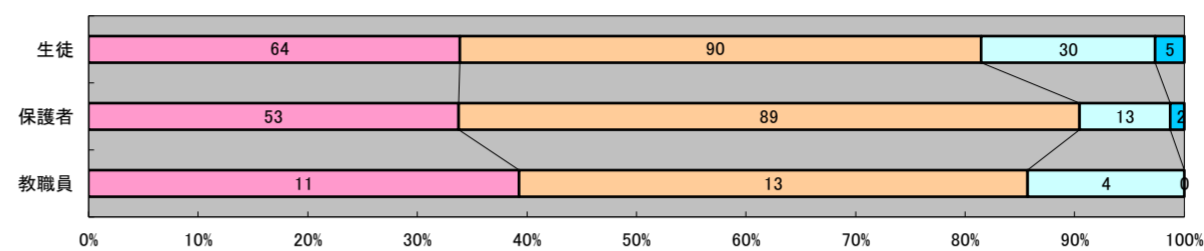
9 災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている（防災教育）



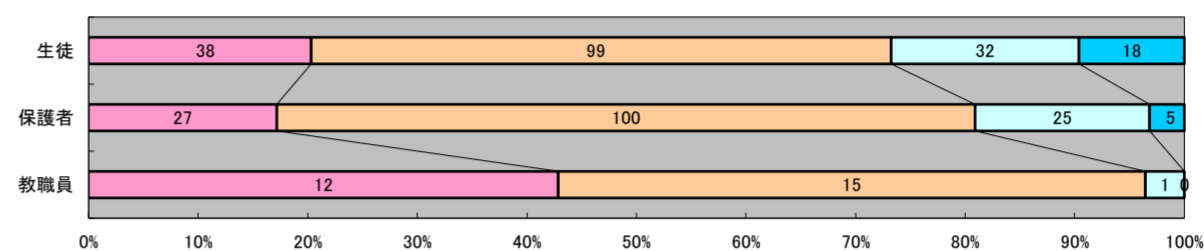
10 学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている（開かれた学校づくり）



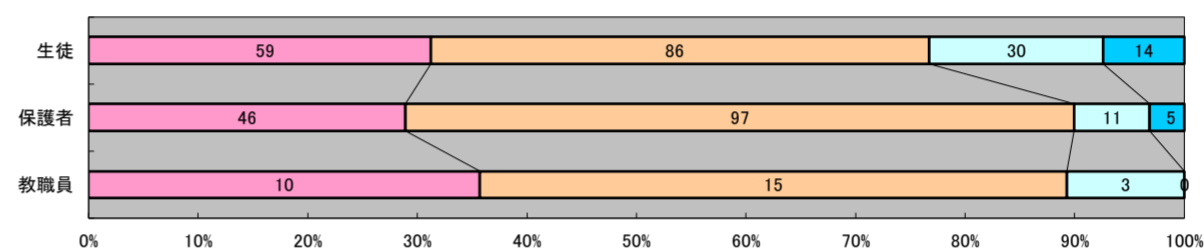
11 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている（施設設備）



12 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる（いじめ問題）



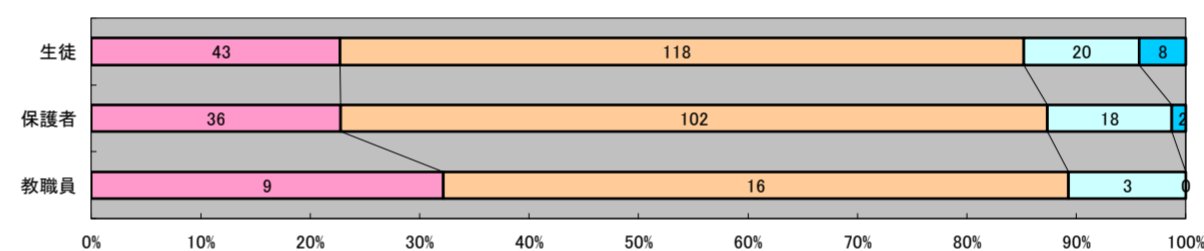
13 学校生活は充実している（総合満足度）



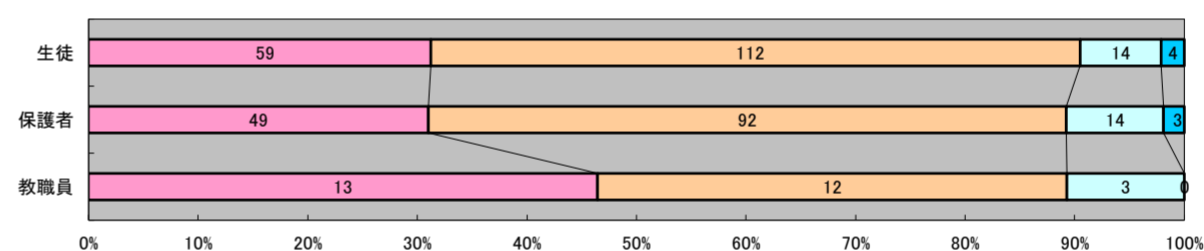
学習指導・生徒指導・進路指導・教育相談に関しては80%を超える高い肯定的回答を得ており、現行の指導が評価されている。ただし、学習指導に関しては教職員に比べ生徒の否定的回答が多きことに注目したい。また部活動についても良好であるが、策ぬんとの比較で特に教職員の否定的な解答が増えている。今年度は教職員の大規模の移動や対外的な大きな行事があり、昨年度までとは違った環境であったことが影響していることも考えられる。これに対して生徒活動に対する肯定的な評価の増加は喜ぶべきことである。
 今後、改善すべきことは、開かれた学校づくりに関しては「学校便り」の定期的発行、防災に関する本校の対応を保護者に周知すること、いじめ問題に関する対応を充実させることがあげられる。

II 教育方針と学校経営

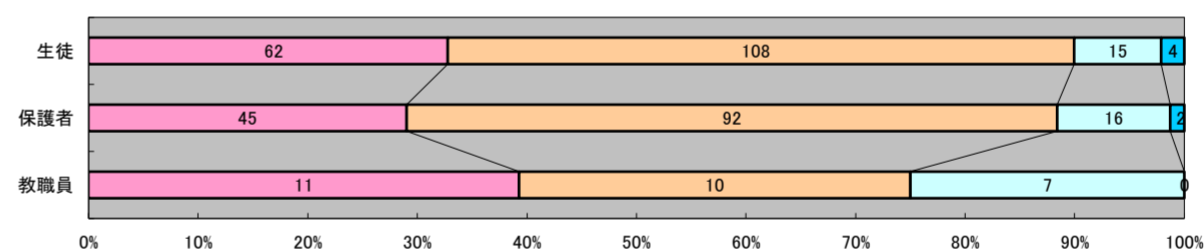
1 本校の教育方針や指導目標が分かりやすく共感できる。



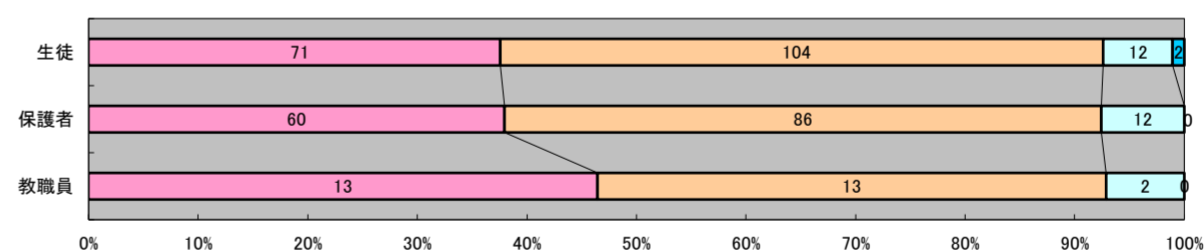
2 本校は、協調と奉仕の精神をもって誠実に責任を果たす生徒を育てようとしている。



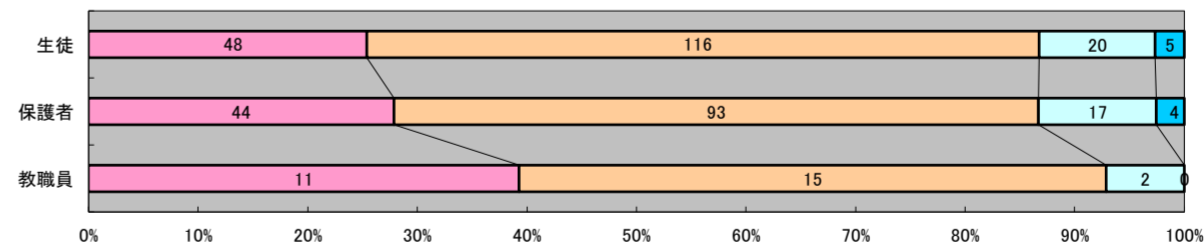
3 本校は、自主的で逞しい実践力のある生徒を育てようとしている。



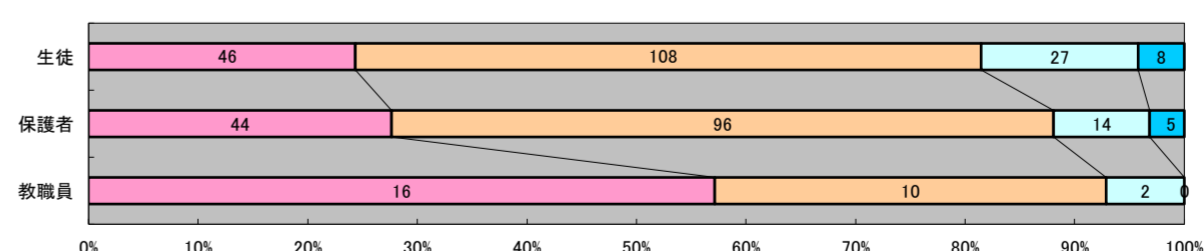
4 本校は、技能を習得し、勤労を重んじ、進んで創意工夫に努める生徒を育てようとしている。



5 本校は、豊かな情操と高い道徳心のある生徒を育てようとしている。



6 校長のリーダーシップのもと、全職員が一致団結して教育活動にあたっていると思う。

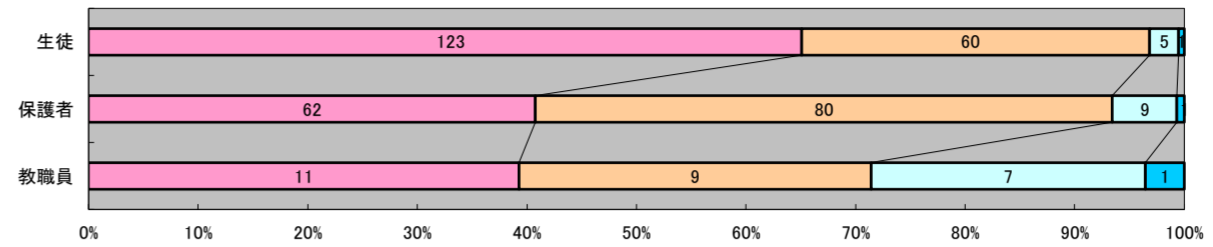


質問項目のほとんどにおいて8割を超える肯定的回答を得ていることから本校の教育方針と学校経営に関しては概ね指示される内容であると言える。

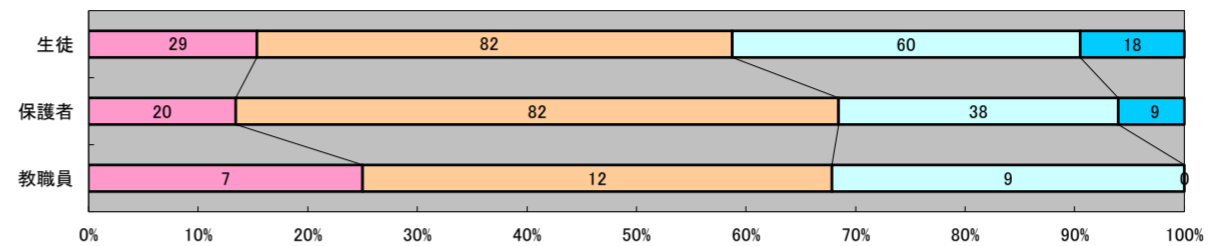
しかし注目すべきは、「自主的で逞しい実践力のある生徒を育てているか」という項目に対する教職員の否定的回答率の多さである。この背景としては、本校の指導方針自体に対して意見が分かれているのか、教職員間での対応の差の存在に金しているのか、もう一步踏み込んだ質問や状況把握が必要であり、今後の一商の指導方針の方向性の点検と共通理解は図る上で大切な結果である。

Ⅲ 基礎学力の充実向上

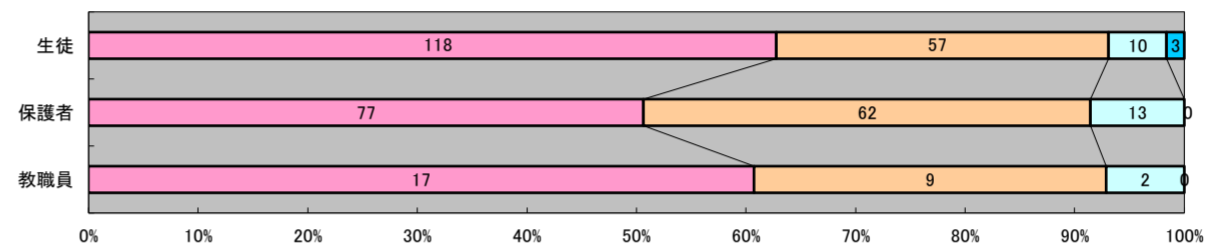
1 本校では、授業日数や時間は十分に確保されていると思う。



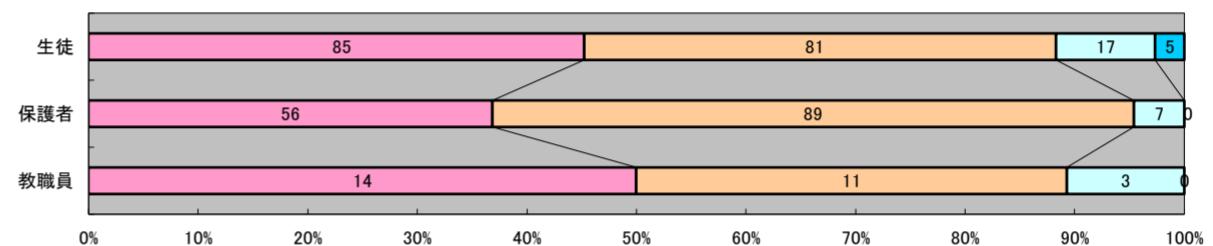
2 本校の先生は、生徒に授業後や週末によく宿題を出していると思う。



3 本校では、基礎学力の向上や検定取得に向けて課外や補習などを充分に実施していると思う。



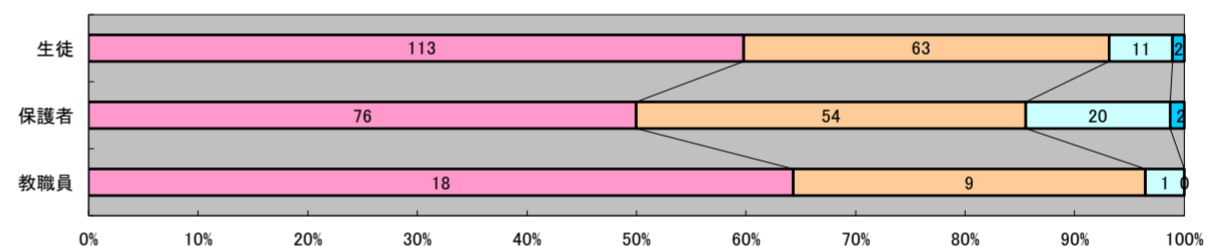
4 本校の学習環境は整っていると思う。



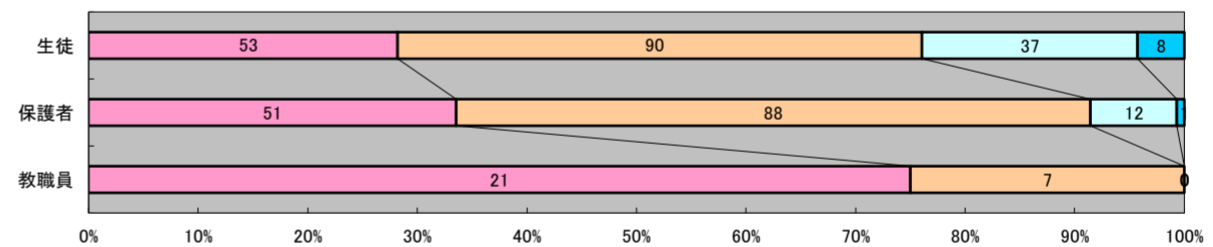
全体的に高い評価を得ているが、前年度に比べて「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の割合が減少している。特に1・2番に関しては、教職員の評価が大幅に減少している。今年度祝日や学校外の行事が多く、授業日数や検定前の補習が確保できず日数不足を感じやすかったためと思われる。また、生徒・保護者の減少については、生徒が宿題の内容や頻度に物足りなさを感じているためと考えられる。今後は宿題の量や生徒の理解状況に沿った宿題定期的の実施していく必要があると思われる。

Ⅳ 規律ある生活習慣の確立

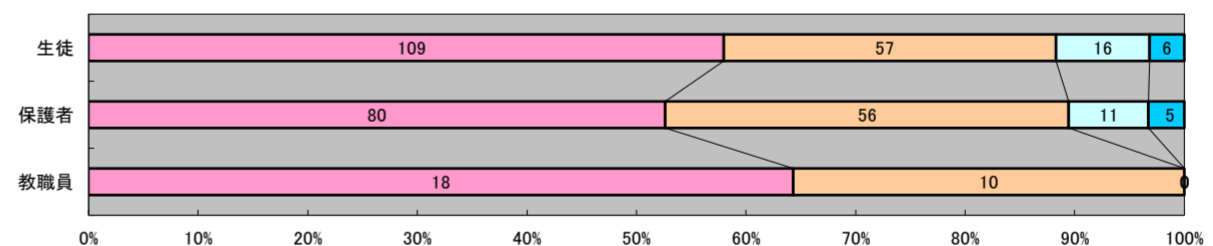
1 本校の生徒は、よくあいさつをすると思う。



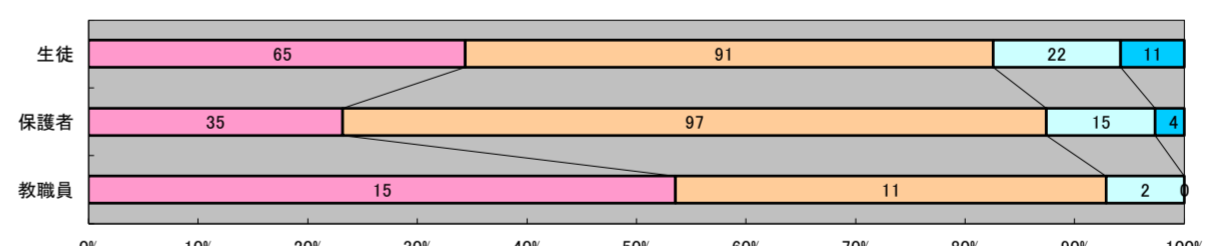
2 本校の生徒は、欠席・遅刻・早退が少ないと思う。



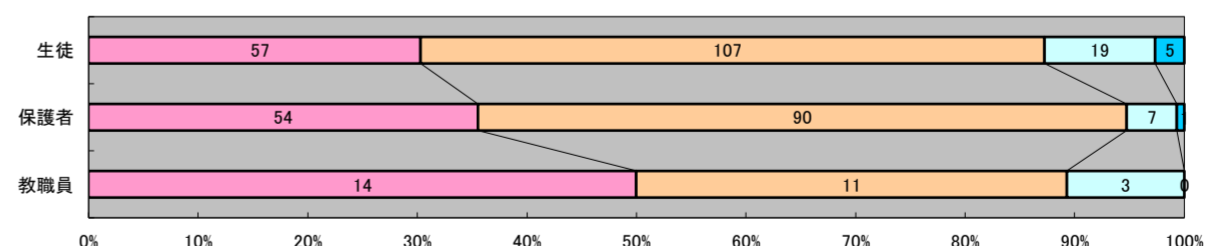
3 本校では、生徒の生活（頭髪や服装を含む）を厳しく指導しておりよいことだと思う。



4 本校では、いじめや差別を許さず厳しく対応していると思う。



5 本校は、清掃などが徹底されて、きれいで整理されていると思う。

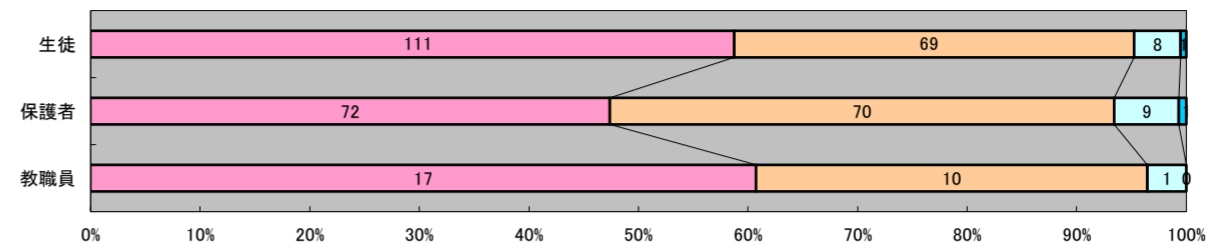


ほとんどの項目で「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」の割合が8割を超えており、生徒自身が規律ある生活をおくることができていると感じていると読み取れる結果となった。あいさつについて前年度比でマイナスとなっているが、改善の余地は残っている。欠席等の生徒の評価が低いのは、長欠者や休みがちな生徒が各クラスに若干名ずついるのが数値として表れた。しかしながら、ほとんどの生徒が、基本的な生活習慣ができていると感じている。

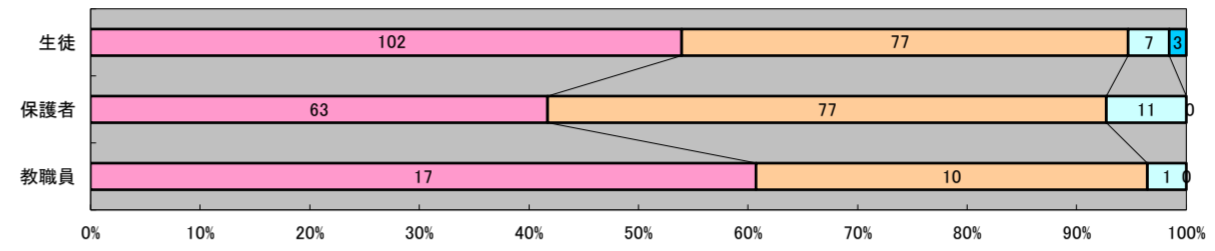
職員の評価においていじめ・差別への対応や清掃の徹底について評価が下がっており、今後共通理解をもって生徒指導に取り組んでいかなければならない。

V 自主的な進路設計とその実現

1 本校では、生徒に適切な進路情報を提供していると思う。



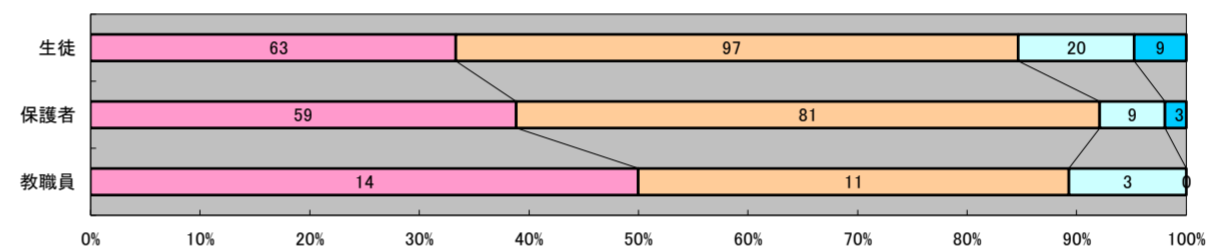
2 本校では、自己の希望する進路を達成をしていると思う。



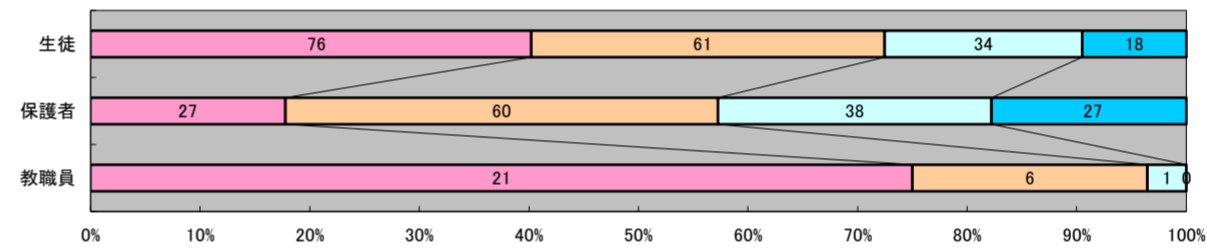
「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の結果から、1の「進路情報の提供」については、生徒・保護者の回答ともが昨年度に比べ1%前後の上昇にとどまっているが、共に90%を超えており、進路意識の高まりと学校の取り組みが浸透している結果と思われる。
 2の「希望する進路の達成」についても、生徒・保護者共に90%を超えており、おおむね生徒本人と保護者が望む進路達成の考えが一致していると推測される。
 今後、進路行事等の精選と検証を進めると同時に、保護者との連携を密にし、入学時から進路を視野に入れた指導を重ねていく必要がある。

VI その他

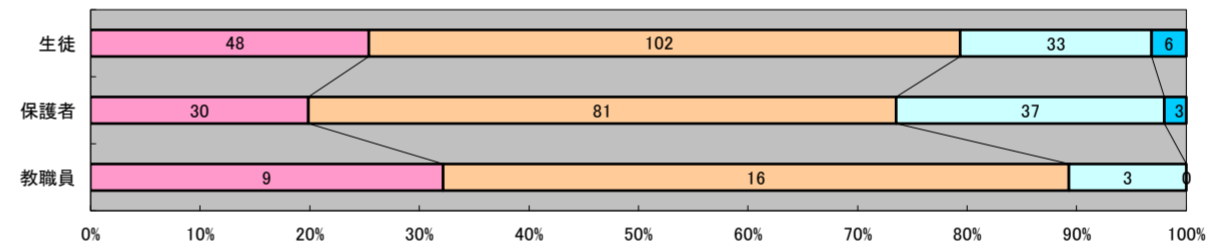
1 本校の職員は、礼儀正しく親切に対応してくれていると思う。



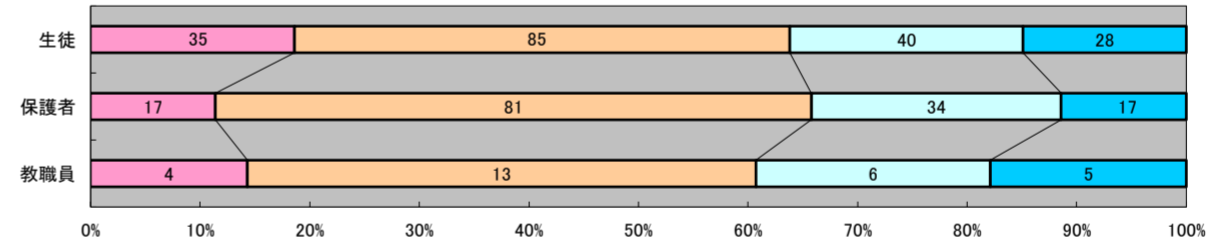
2 本校が実施している栗原版デュアルシステムを知っている。



3 本校は、各種のボランティア活動を積極的に行っていると思う。



4 本校のホームページは、内容が充実していると思う。



各項目とも昨年度とポイントに大きな変化はない。1の「職員の対応が礼儀正しく親切か」に関して、保護者の評価が若干だが向上している。しかし、この質問に関しては否定的な評価をさらに減少させなければならない。職員は結果を真摯に受け止め、共通課題として認識することが必要である。
 栗原版デュアルシステムについては認知度はあまり変化がなく、低い。取り組みを保護者に知らせることにより向上するかと思われる。
 ホームページの内容充実の質問項目は教員からの評価がかなり厳しい。更新を定期的に行うなど改善が必要かもしれない。